



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第95号

2011.12.1

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」
の名前をつかっています。

もくじ

お知らせ

- ー冬期閉館中について
- ー千町原の保全活動の報告について

活動報告

- ーゴギの観察会（大朝）
- ー八幡高原の野鳥観察会
- ー紅葉と冬芽の観察会

観察会案内

- ー冬を生きる動物達の生態
- ー雪原のトレッキング
- ー早春のトレッキング

お知らせ

●冬期閉館中についてのお知らせ

高原の自然館は冬期閉館となりました。閉館期間と連絡先は以下の通りです。

冬期閉館期間：2011年11月26日（土）～
2012年4月24日（水）

連絡先：北広島町役場芸北支所
〒731-2323

広島県山県郡北広島町川小田75

TEL：080-6334-8601（西中国山地自然史研究会）
FAX：0826-82-3009

●千町原の保全活動の報告についてのお知らせ

11月23日に行われた千町原の保全活動の報告は次号の苅尾電波塔に掲載します。

観 察 会 報 告

● ゴギの観察会 (大朝)

開催日時:2011年11月3日(木・祝)9:30

講師:内藤順一

少し雲がかかって、過ごしやすい気温の中、大朝公民館に12名の方が集合しました。今回の講師は内藤先生です。備北では、広島県の天然記念物に指定されている、ゴギの産卵の様子を見てみよう、という今回の観察会、まずは、公民館内で先生のお話を聞きました。瞳大の白い斑紋が、頭部まであるのが特徴であること、滯筋(みおすじ)から外れた、砂礫(されき)が堆積しているところに産卵すること、河川の開発などで、産卵場所が少なくなったり、川の遡上ができなくなったりして、数が減少していることなど、色々なことを話されました。また、産卵している様子をビデオに撮影したものを上映していただきました。オスとメスが並んで泳いでいる姿や、オスがメスにすり寄って産卵を促しているところ、口を大きく開けて産卵している瞬間や、産卵後に、「舞の行動」と呼ばれる、メスが身体をくねらせながら周囲を泳いでいる様子などを見ることができました。お話を聞いた後は、実際にゴギを観察しに行きます。車で現場まで向かいました。川岸から覗いてみると、ゆったりと泳いでいるゴギの姿を見ることができました。体長などから、2年目の個体だということが分かりました。内藤先生は「これくらいの大サイズの溜まりだと4、5匹くらいは泳いでいる」と言われました。また「今年は、まだ気温があまり下がっていないから、本格的に産卵を始めるのはもう少し先になるだろう」と話されました。引き続き観察していると「小さい個体もいますね」と、白川学芸員が、観察していた場所から少し離れた場所を指し示しました。先ほどの個体よりもかなり小さく、まだ1年目の個体だということが分かりました。今年は産卵しないためか、泳いでいる場所も、川の流れが早くなる瀬頭周辺を泳いでいました。内藤先生が「ちょっと頭上を見てください」と言われました。見上げてみると、そこには植樹されたスギがありました。「ゴギは基本的に何でも食べるが、その大部分は誤って木から水面に落ちてしまった落下昆虫などを食べている。木が伐採されると、その昆虫が落ちてこなくなる。

スギやヒノキなどの植樹されたものは昆虫の幼虫が少なく、枝を横に広げていくものの方がよいので、そのような樹木を残していくのが重要だ」と話されました。参加された方々は、ゴギが泳ぐ姿を写真におさめたり、ゴギの理解を深めようと積極的に内藤先生に質問されたりしました。河川工事や、森林の伐採、別の魚の放流などにより、その個体数が減っているゴギを、守るためにはどうすればよいのか、考える機会となった観察会でした。[ありみつまさかず]



公民館でゴギについて学習する。内藤先生がどの辺りに産卵するかを黒板を使って解説中。



観察場所に到着。ゴギはいるかな？



ゆっくりと泳ぐ2年目のゴギ。ヒシの端がきれいなオレンジ色に染まっていた。



内藤先生お手製の水中撮影機器。産卵の瞬間などを、多数撮影してきた自慢の一品。



川の上に張り出した樹木。観察場所からは少し離れていたが、このような樹木があることが、ゴギにとっては重要。



撮影機器の話をする内藤先生。家には、これまでの試作品がたくさんあるそう。

【みなさんの印象に残った物】

「ゴギがイワナの仲間だと知ったこと」「ゴギとサツキマスの産卵場所の区別がついたこと」「ゴギの生息環境が見れたこと」「山の空気はおいしい」「ゴギのオスのきれいなオレンジ色(2)」「ビデオの産卵の画像の説明にこもる先生の熱意」「二年目、一年目のゴギが見られた事」

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「里山の自然を大切にしたい」「ゴギという魚に興味を持てた」「ゴギの状況がきびしいことがわかった(2)」「内藤先生の話しはわかりやすかった」「八幡に比べてゴギが見やすかったです(2)」「今後いつまでもゴギの住める場所が残る事を望んでいます」「環境を守護して命をつないでほしい」



こちらは1年目のゴギ。流れが速くなる瀬頭を行ったり来たりしていた。

観 察 会 報 告

● 八幡高原の野鳥観察会

開催日時:2011年11月19日(土)9:00

講師:上野吉雄

あいにくの天気の中での開催となった八幡高原の野鳥観察会に8名が集合しました。今回の講師は上野先生です。最初に自然館のパネルを使ってのお話をいただきました。今回はどんな場所を見に行くのか、今の時期はどんな鳥が見られるかなどを話されました。説明が終わると外に出て、最初の観察場所の霧ヶ谷湿原へと出発しました。車から降りたところで、早速カシラダカの群れを見つけました。また、群れの近くにいた、ホオジロも見る事が出来ました。移動の合間には餌となる木の実などの解説も行われました。黄色い果皮に覆われていて、熟すと中から赤い実が出てくるツルウメモドキや、黒い実をつけるイヌザンショウ、早い時期から目立つ赤い実をつけ、冬の間の餌となるカンボクなど、一つ一つ説明されました。霧ヶ谷湿原をぐるりと一周し、次の観察場所である大歳神社へと向かいました。上野先生が、電線の上にシラガホオジロが止まっているのを見つけました。「越冬のために日本にやって来ているが、国内では八幡を合わせて、3カ所でしか見られない。また、朝早くに田んぼで、落ち穂を食べた後は、山に帰るので、この時間に見れたのは運が良かった」と、とても嬉しそうに話されました。参加された方々も、思い思いに双眼鏡での観察や写真を撮影、図鑑で特徴を確認したりしていました。この場所では、他に、マガモとコガモが混群となって飛んでいる姿や、ノスリ・トビ・ハシブトガラス、ハシボソガラスの姿が見られました。モズのさえずりも聞こえました。最後に尾崎谷湿原へと足を向けました。辺りを散策していると、エナガの鳴き声が聞こえてきました。「これは警戒している時の鳴き方だから、天敵となる猛禽類が近くにいる」と、話されました。目的地である新川ため池では、オオバンやカワウ、マガモなどが池の中を泳いでいる姿や、飛び立っていく瞬間を見ることができました。また、上空をハイタカが飛んでいる様子も見ることができました。「ハイタカは飛んでいる小鳥を捕まえて餌にする。先ほどのエナガはこれを警戒していたのだろう」と、説

明されました。みんなでどんな鳥が見れたかを話し合い、今日の観察会で25種類の野鳥を観察したことを確認しました。しかし一方で「去年の猛暑で木の実があまり出来ず、また、冬の豪雪や春の到来が遅かったのが重なって、多数の鳥が命を落とした。例年なら、電線に沢山のアトリがとまっているが、今年はあまり見られなかった」と残念に思うところもありました。貴重な鳥を見られた嬉しさと、来年は、たくさんの鳥が八幡に来ることを期待する観察会となりました。[ありみつまさかず]

※写真を吉岡透さんに提供していただきました。ありがとうございました。



自然館内でお話。パネルを使いながら、この時期に見られる野鳥のことを勉強する。



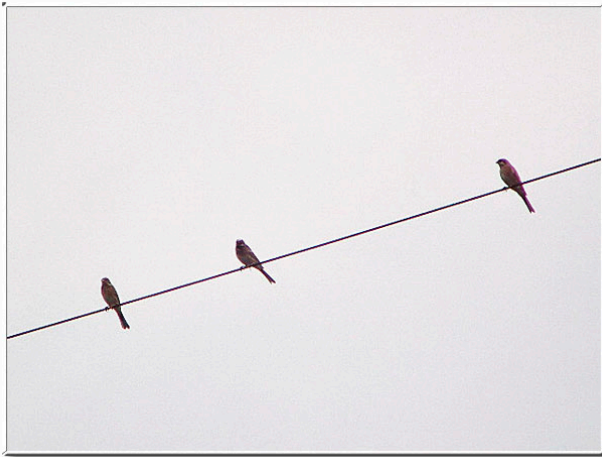
雨が降る霧ヶ谷湿原を歩く。煙る山々は、晴れとは違う美しさを感じた。



雨が上がる頃に大歳神社へ、電線に何かがとまっているが…？



こちらはキジバト。この他にもハシブト、ハシボソガラスやトビなども見られた。



シラガホオジロがいた！



水面に出た杭にとまっているカワウ。こちらに気付くとすぐに飛び去っていった。



図鑑で細部の特徴を確認。ホオジロの仲間ではかなり大型になる。

【みなさんの印象に残った物】

「シラガホオジロなんですが、ツグミがいなかったことの方が印象深かった。」「雨空のなかでもたくさんの鳥が見れたこと」「シラガホオジロが見れたこと(2)」「ハイタカが見れたこと」

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「雨で心配だったが充実の半日だった」「鳥が少ないという状況が体感できました」「小雨だったけどたくさん見れてよかった」「レンジャク、ツグミを見たかった。上野先生に丁寧に教えていただき、ありがとうございました。」

観 察 会 報 告

● 紅葉と冬芽の観察会

開催日時:2011年11月26日(土)9:30

講師:斎藤隆登

紅葉と冬芽の観察会は、快晴に加えてほとんど風もない絶好の散策日和の中での開催となりました。高原の自然館に7名の方が集合しました。今回の講師は斎藤先生です。出発の前に自然館でお話を聞きました。「冬芽」といいながら夏の終わり頃から芽が出来ていること、冬の寒さを乗り越えるために様々な方法で芽を守っていることなどを話されました。その後、車で観察場所まで向かいました。今回の観察場所である苅尾の中腹に車を停めて、観察を始めました。まずはミズナラに注目しました。先生お手製の道具で冬芽のついた枝を引き寄せ、手にとりながら「冬芽を守る1つとして、芽鱗(がりん)というもので芽を覆う方法がある。また、芽鱗が剥がれ落ちてできた痕を芽鱗痕(がりんこん)と呼び、それを見ることで若い枝の年齢を知ることが出来る」と解説されました。この他にも、1つの場所に2つの冬芽をつけるエゴノキや、落ちた枝の痕がふくらんで目立つウワミズザクラ、つやのある赤紫色の枝先が特徴的なミズキなど、冬芽以外の特徴も交えながら、19種類の樹木について教えていただきました。参加者は、先生が引き寄せた枝を、ルーペを使って観察したり、先生が描かれた、冬芽の線画集を見て特徴を調べるなど、思い思いに冬芽の観察を楽しんでいました。また2本の木を見比べて、「まっすぐ成長している大きな木と、その方向に枝をのびさず道路に向かって成長している若い木など、日光を求めて成長している様子が、この時期になるとよく分かる」と、葉を落としている時期の楽しみ方も教えていただきました。すっかり冬支度を終えた苅尾の木々を、いつもより1歩踏み込んで見ることができた観察会となりました。[ありみつまさかず]



自然館内でお話を聞く。配られた資料は、斎藤先生が描かれた冬芽の線画集。



観察場所付近の側溝に積もった様々な落ち葉。当日は暖かく、雪もわずかに残っている程度。



ミズナラの冬芽を観察。先生お手製の道具で枝を引き寄せる。



ルーペを使ってじっくりと観察。



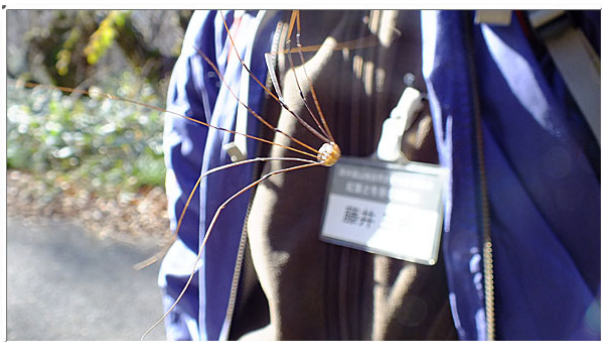
ミズキの冬芽。赤紫色の枝が葉の落ちた山に華やかさを与える。



ミズナラの冬芽。先端には複数の冬芽ができていた。



道路側に向かって成長している木を見上げる。



途中で出会ったザトウムシの仲間。暖かいせいか、もう1匹見かけた。

【みなさんの印象に残った物】

「冬は樹木が夏と全く違う感じでびっくりです。」「キハダの身をかいだがサンショウ？みたいでした。食べられた方はにがいのコメントがありました」「ミズキの枝が赤く印象に残りました。」「オトコヨウゾメの冬芽と果実」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「天気にもまれて楽しかったです。」「冬の山の楽しみ方が1つ出来たと思いますけどもっと多くの人達が参加されると良いと思います」「風もなく気持ち良かった。キハダの実がにがかった」「情報量の少ない時にどう特徴をつかまえるか新しい視点で植物を見ることができました」

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳

作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

● 冬を生きる動物達の生態

開催日時：2012年1月15日(日) 10:00
集合場所：高原の自然館
講師：上野吉雄
準備：基本セット, かんじき(レンタルあり), スノーシュー
定員数：30名
参加費：一般=300円
賛助会員=100円
正会員・中学生以下=無料

2011年は大雪の年でしたが、2012年はどうでしょうか？積もった雪の上を歩きながら、動物たちの足跡や痕跡を探します。どんな動物たちが活動しているのでしょうか？積雪量が多い場合、かんじきやスノーシューが必要です。レンタル可能(有料)です。



● 雪原のトレッキング

開催日時：2012年2月19日(日) 10:00
集合場所：高原の自然館
講師：上野吉雄
準備：基本セット, かんじき(レンタルあり), スノーシュー
定員数：30名
参加費：一般=300円
賛助会員=100円
正会員・中学生以下=無料

積雪により道がないところでも歩くことができます。一面真っ白の雪原で、冬に生きる動物・植物の姿を観察しながら、雪歩きを楽しみましょう。かんじき・スノーシューが必要な場合はご準備下さい。レンタルも可能(有料)です。

● 早春のトレッキング

開催日時：2012年3月18日(日) 10:00
集合場所：高原の自然館
講師：上野吉雄
準備：基本セット
定員数：30名
参加費：一般=300円
賛助会員=100円
正会員・中学生以下=無料

厳しかった冬が過ぎ、3月に入ると八幡高原も少しづつ春の兆しが現れます。湿原や草原を歩きながら、いくつ春を見つけることができるでしょうか？この時期だからこそそのトレッキングをして季節を感じましょう。

例年とは異なり、今年は閉館間際まで目立った雪が降りませんでした。通身からすれば助かることではありましたが、「今年中は中々雪が降らないねえ」と、話される方もちらほら。また、千町原の保全活動や冬期閉館による片付け、芸北支所への引っ越しなど、バタバタした時期でもありました。自然館は冬期閉館となりましたが、観察会やイベントなどはまだまだありますので、どうぞよろしく申し上げます。(ありみつ)

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしています)

高原の自然館(こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1
tel. & fax : 0826-36-2008
<http://shizenkan.info/>
staff@shizenkan.info